

研究課題名	転写因子 Forkhead box F2 (FOXF2) による膵癌の発癌予測および予後予測法の開発
研究の意義・目的	膵癌は予後不良な疾患です。膵癌の発生には Wnt/ β カテニン経路の破綻が関与していると言われていますが、その正確な破綻の機序は未だ解明されていません。胃癌ではこの Wnt/ β カテニン経路の破綻の原因として、FOXF2 の発現低下が関与することが報告されています。膵癌でも FOXF2 の発現低下が経路の破綻に関与している可能性があり、それらの関与を本研究では明らかにすることを目的とします。FOXF2 発現低下の原因となりうる遺伝子の検索のため、遺伝子解析も行います。また FOXF2 の発現低下で、膵癌の発癌予測や手術後の再発を予測し、予後予測の開発ができないかについても研究します。このため手術後の残存している膵臓に再発(残膵再発、残膵癌)した方も対象とし研究を行います。残膵癌が新規病変なのか、初回病変の再発なのかを判断するため、遺伝子パネル検査を行います。遺伝子パネル検査とは患者様の DNA を調べて、多くの遺伝子情報を一度に解析することができる検査です。がん細胞の遺伝子の異常を調べることで、どのような遺伝子の異常があるか調べることで、残膵癌が新規病変なのか、初回病変の再発なのかを調べます。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2018年4月から2024年4月の間に膵癌・胆管癌・ Vater 乳頭部癌・IPMN・慢性膵炎の診断で外科的治療を受けた方で病理学的検査で上記と確定診断されている方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：肝胆膵腫瘍で外科的手術を行なった術後の膵臓凍結組織検体、ホルマリン検体 患者基本情報：年齢、性別、診断名、現病歴、既往歴、自覚症状、家族歴、喫煙歴、飲酒歴 血液検査：白血球数(分類)、AST、ALT、T-Bil、Alb、BUN、血清クレアチニン、CA19-9、CEA、Span-1、Dupan-2 病理検査：病理検査結果 画像検査：胸部 X 線、CT 検査(CT 画像に基づいた膵体積の測定結果をもとに膵萎縮を判断します)、MRI 検査、PET 検査、内視鏡検査、腹部超音波検査、超音波内視鏡検査(超音波内視鏡を用いた膵 elastography で膵硬化度の評価を行います)

試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学、肝胆 膵外科学で行います。 【研究責任者】大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 丸山 紘嗣
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その 指示を受けて適切に管理します。 今回の研究は「転写因子 Forkhead box F2 による膵癌の発癌予測および予後予測 法の開発」として科学研究費助成事業の助成金を受け実施します。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対 象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受ける ことはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 担当者氏名：丸山 紘嗣 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス：hiomaruyama99@omu.ac.jp